

[Material]

## Current Status of Skin Care Provided by Parents to Their Small Children

Nasoko Matsumoto\*

\* Aino University, Department of Nursing

\*\* Visiting nursing center Meiwa

### Abstract

**Purpose :** The purpose of this study is, regarding the skin care provided by parents to their small children, to reveal the differences between their one-year-old children and two-year-old children as well as between their first children and the second children or later ones.

**Method :** A self-completed questionnaire on skin care was conducted with the parents whose child aged one or two were attending a nursery school.

**Results :** Out of fifteen question items on skin care, a significant difference was found between one-year-old children and two-year-old children regarding the following three items : “Not scrubbing their skin in bathing them”, “Using a less amount of soap” and “Opening the window to let fresh air in for avoiding ticks”. Regarding the comparison of skincare according to the order of their birth, a significant difference was observed in such three items as “Clipping their nails short so that they will not scratch on themselves”, “Wiping their mouth and face every time they get dirty after having a meal”, and “Changing their clothes whenever they get sweaty” where the first children were taken better care of. Meanwhile, a significant difference was demonstrated in the item of “Not scrubbing their skin in bathing them” in which the second children were paid more attention to.

**Discussion :** Regarding the current status of skin care provided by parents, while several differences were identified between their one-year-old children and two-year-old children as well as in terms of the order of their birth, any decisive difference was not found.

**Key Words :** small children, nursery school, skin care, parents

## 幼児の親が行うスキンケアの現状

松 本 七十子\*

### 【要 旨】

目的：1歳児クラスと2歳児クラス、第1子と第2子以降による比較を通して幼児の親が行うスキンケアの現状を明らかにする。

方法：1歳児クラス、2歳児クラスの保育園に通わせている親を対象に、スキンケアの自記式質問紙調査を行った。

結果：スキンケアの質問15項目中、1歳児と2歳児での比較において有意な差及び有意傾向が認められたのは『入浴時にこすらないようにしている』、『洗剤を少なめに使用している』、『ダニ対策として窓を開け換気する』の3項目であった。出生順位によるスキンケアの比較では『爪を短く切り搔かないようにさせている』、『食事で汚れた都度、口と顔を拭く』、『汗をかくたびに着替えをしている』の3項目が第1子に高く有意な差がみられた。一方、『入浴時にこすらないようにしている』は第2子に高く有意な傾向がみられた。

考察：1歳児2歳児の比較及び出生順位の比較において、有意差のみられた項目は、社会通念や子育ての経験が反映されるものであった。

キーワード：幼児、保育園、スキンケア、親

### I. はじめに

2歳以下の幼児の皮膚は、角質層が薄く脂質量が少ないため乾燥しやすい状態にあることから、バリア機能が低く外界からの影響を受けやすい<sup>1)</sup>。そのため、掻き傷からの感染のリスクが高まることやアトピーの誘因にも繋がりやすいことが指摘されており、スキンケアの必要性が高まっている<sup>2)</sup>。

幼児の皮膚を保護するためのスキンケアには、肌着や寝具の選び方、保湿剤の用い方など様々な方法が取り入れられている<sup>3)</sup>。

また、スキンケアの回数とタイミングについては、

角質層を傷めないためにも朝・昼・夜の3回が必要であり、タイミングは、朝の出かける前と汚してから時間の経っていない帰宅直後が効果的であると佐々木は報告している<sup>4)</sup>。

しかし、幼児のスキンケアを実施する場合、2歳以下の幼児であっても1歳児と2歳児では、発達において行動範囲が異なる<sup>5)</sup>ことから、皮膚の汚れは同一ではない。また、スキンケアを実施する親も第1子と第2子以上では、育児に対する熟練度に差があることは、経験的に知られている。

医中誌 WEB 版 2010～2020 年において「幼児、スキンケア、親」をキーワードに検索すると 57 件が

\* 藍野大学医療保健学部看護学科

\*\* 医療法人明和病院訪問看護センター明和

ヒットしたが、殆どがアトピーや保育園でのスキンケアに関するものであった。本研究に関連する報告は、樋口<sup>6)</sup>が行った1カ月児を対象とした児の皮膚状態と母親の認識を比較した調査が1件該当したのみである。

そこで、本研究においては幼児の親が行うスキンケアについて、1歳児クラスと2歳児クラスでの比較と第1子と第2子以上によるスキンケアの異なりを明らかにすることにした。

幼児期のスキンケアが皮膚に与える影響は大きい。本研究結果からは、幼児の発達段階に応じたスキンケアの提言ができると思われる。

#### 【用語の定義】

本研究では日本看護科学学会の定義を基に、スキンケアとは皮膚の機能を妨げるものを取り除いたり、皮膚を保護するものを塗ったりすること<sup>7)</sup>とする。入浴や清潔への配慮から、アレルギーの肌になりやすい幼児に使用する物品や保湿を保つ工夫など環境面への配慮や、ダニやカビなどの除去対策も、スキンケアの範疇としてとらえる。

## II. 研究目的

本研究の目的は、保育園に1歳クラス、2歳クラスの幼児を通わせている親を対象に、幼児の親が行うスキンケアについて、1歳児と2歳児での比較と第1子と第2子以上によるスキンケアの異なりを明らかにすることである。

## III. 研究方法と対象

### 1. 研究デザインと研究対象

研究デザインは、無記名自記式質問紙を用いた調査研究である。研究対象は、大阪府下の4か所の私立認可保育園（大阪府の中心部住宅地、北部の住宅地）に在籍する幼児（1歳児、2歳児）の親である。

### 2. 調査期間

研究期間は2016年7月から2017年3月であり、アンケート実施期間は、2016年9月1日から10月30日の2か月間である。

### 3. データ収集方法

保育園の責任者に研究の趣旨と目的を説明し承認を得た後、対象者へ研究者又は保育園職員が文書と口頭

により説明を行い、研究への協力を依頼した。対象者には、自由意志での回答を求め調査用紙への回答をもって研究の同意とする事も説明した。回収方法は、郵送とした。

## 4. 調査内容

### 1) 幼児の基本属性

性別、出生順位

### 2) スキンケア調査項目

質問内容は、「日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドライン（2008）」<sup>8)</sup>を参考に、親が実施するスキンケアに関連する質問内容を研究者が作成した。質問は、「直接的スキンケア項目」8項目（入浴、シャワー時にこすらないようにしている、石鹸は子ども専用を使用している、石鹸は残らないようにすすぐ、入浴後保湿クリームを塗っている他4項目）と、「間接的スキンケア項目」7項目（購入後の肌着は使用前に水洗いをしている、洗剤を少なめに使用している、カビ対策の風通しをしている）の合計15項目とした。

回答は、「当てはまる」を4点、「少し当てはまる」を3点、「あまり当てはまらない」を2点、「当てはまらない」を1点とし、集計した。

## 5. 分析方法

スキンケア項目について、1歳児クラスと2歳児クラス、および出生順についてt検定を用いて比較した。統計ソフトは、SPSS 23.0Jを用い、有意水準5%、有意傾向10%とした。

## 6. 倫理的配慮

研究対象者に、研究への参加・不参加は自由意思であること、研究に参加しない場合でも一切の不利益が生じないことを口頭と文書にて説明した。調査用紙は個人が特定されないよう無記名とし、調査用紙の回答と返送をもって同意を得られたものとした。なお、本研究は藍野大学研究倫理審査委員会の審査の承認を得て実施した（承認番号 Aino2016-004）。

## IV. 結果

調査用紙の配布は300部であり、回収数は113部（38%）であった。回答に欠損のない108部（36%）を有効回答として分析対象とした。

### 1. 幼児の基本属性

幼児の基本属性について表1に示す。

1歳児が31名(男児16名, 女児15名)で, 2歳児が69名(男児35名, 女児34名)であった。出生順位は, 1歳児クラスの第1子が13名で第2子が18名, 2歳児クラスでは, 第1子が32名で, 第2子が37名であった。

#### 2. 1歳児クラスと2歳児クラスのスキンケア

1歳児と2歳児のスキンケアについて年齢間で比較したものを表2に示す。15項目中「入浴時にこすらないようにしている」は, 1歳児は $3.32 \pm 0.83$ , 2歳児は $2.59 \pm 1.11$ で1歳児の方が高く有意な差が認められた ( $p=0.002$ )。『洗剤を少なめに使用している』については, 1歳児は $1.87 \pm 0.76$ , 2歳児は $1.55 \pm 0.89$ で, 1歳児の方が高く有意な傾向であった ( $p=0.088$ )。また, 『ダニ対策として窓を開け換気する』

も1歳児は $3.22 \pm 0.88$ , 2歳児は $2.82 \pm 1.01$ で1歳児の方が高く有意な傾向であった ( $p=0.061$ )。そのほかの12項目には有意差及び有意な傾向ともに認めなかった。

#### 3. 出生順位とスキンケア

出生順位とスキンケアについて比較したものを表3に示す。1歳児クラスと2歳児クラスのスキンケアと同様の15項目中以下の3項目に有意な差が認められた。『爪を短く切り搔かないようにさせている』において, 第1子は $3.57 \pm 0.69$ で, 第2子以降は $3.18 \pm 0.86$  ( $p=0.014$ )。『食事で汚れた都度, 口と顔を拭く』では, 第1子は $3.62 \pm 0.68$ , 第2子以降は $3.21 \pm 0.83$  ( $p=0.010$ )。さらに『汗をかくたびに着替えをしている』では, 第1子は $2.91 \pm 0.79$ , 第2子以降は $2.56 \pm 0.83$  ( $p=0.037$ )。いずれも第1子の方が高い結果であった。

有意差は認められないものの『入浴時にこすらないようにしている』では, 第1子は $2.26 \pm 1.75$ , 第2子以降は $3.00 \pm 0.98$ で第2子以降の方が高く, 有意な傾向であった ( $p=0.067$ )。その他の11項目には差は認められなかった。

表1 幼児の基本属性 (n=108)

項目		結果
1歳児	性別(人)	男性 16 (51.6%)
		女性 15 (48.3%)
	出生順(人)	第1子 13
		第2子 18
2歳児	性別	男性 35 (50.7%)
		女性 34 (49.2%)
	出生順	第1子 32
		第2子 37

表2 1歳児と2歳児のスキンケアの比較 (n=108)

項目	1歳児	2歳児	p値
<b>【直接的スキンケア】</b>			
Q1. 入浴時にこすらないようにしている	$3.32 \pm 0.83$	$2.59 \pm 1.11$	0.002**
Q2. 1日1回の入浴だけでなく朝に顔を拭いている	$2.67 \pm 1.32$	$2.47 \pm 1.23$	0.467
Q3. 石鹸・シャンプーは子ども専用を使用している	$3.41 \pm 0.99$	$3.10 \pm 1.17$	0.194
Q4. 石鹸・シャンプーは残らないようにすすぐ	$3.90 \pm 0.30$	$3.85 \pm 0.49$	0.617
Q5. 入浴後, 保湿クリームか乳液を塗っている	$2.64 \pm 1.22$	$2.68 \pm 1.26$	0.895
Q6. 爪を短く切り, 搔かないようにさせている	$3.29 \pm 0.73$	$3.39 \pm 0.84$	0.567
Q7. 食事で汚れた都度, 口と顔を拭く	$3.25 \pm 0.85$	$3.46 \pm 0.75$	0.231
Q8. 汗をかくたびに着替えをしている	$2.77 \pm 0.66$	$2.69 \pm 0.89$	0.664
<b>【間接的スキンケア】</b>			
Q9. 新しい肌着は使用前に水洗いをする	$3.12 \pm 1.11$	$2.78 \pm 1.31$	0.206
Q10. 洗濯前に部分洗いをして洗剤を少なめに使用している	$1.87 \pm 0.76$	$1.55 \pm 0.89$	0.088
Q11. カビ対策の風通しをしている	$2.51 \pm 1.06$	$2.46 \pm 1.18$	0.833
Q12. 風呂場, 洗面所の排水口の掃除をしている	$3.16 \pm 0.73$	$2.95 \pm 1.11$	0.353
Q13. ダニ対策として窓を開け換気する	$3.22 \pm 0.88$	$2.82 \pm 1.01$	0.061
Q14. 天気の良い日は布団を干している	$3.25 \pm 0.77$	$2.98 \pm 0.94$	0.163
Q15. 子どもがいないときに掃除機をかけるようにしている	$2.54 \pm 1.02$	$2.75 \pm 1.04$	0.365

t検定 \* $p < 0.05$  \*\* $p < 0.01$

表3 出生順位とスキンケアの比較

(n=108)

項目	第1子	第2子以降	p値
<b>【直接的スキンケア】</b>			
Q1. 入浴, シャワー時にこすらないようにしている	2.60±1.75	3.00±0.98	0.067
Q2. 1日1回の入浴だけでなく朝に顔を拭いている	2.48±1.29	2.58±1.24	0.715
Q3. 石鹸・シャンプーは子ども専用を使用している	3.55±1.06	3.07±1.16	0.214
Q4. 石鹸・シャンプーは残らないようにすすぐ	3.82±0.57	3.90±0.29	0.330
Q5. 入浴後, 保湿クリームか乳液を塗っている	2.73±1.23	2.61±1.26	0.648
Q6. 爪を短く切り, 掻かないようにさせている	3.57±0.69	3.18±0.86	0.014*
Q7. 乳児は食事で汚れた都度, 口と顔を拭く	3.62±0.68	3.21±0.83	0.010*
Q8. 汗をかくたびに着替えをしている	2.91±0.79	2.56±0.83	0.037*
<b>【間接的スキンケア】</b>			
Q9. 新しい肌着は使用前に水洗いをする	2.97±1.21	2.81±1.30	0.532
Q10. 洗濯前に部分洗いをして洗剤を少なめに使用している	1.80±0.94	1.52±0.79	0.119
Q11. カビ対策の風通しをしている	2.55±1.11	2.41±1.16	0.552
Q12. 風呂場, 洗面所の排水口の掃除をしている	2.88±1.11	3.12±0.92	0.245
Q13. ダニ対策として窓を開け換気する	3.13±0.91	2.80±1.02	0.094
Q14. 天気の良い日は布団を干している	3.08±0.90	3.05±0.91	0.851
Q15. 子どもがいないときに掃除機をかけるようにしている	2.82±1.00	2.58±1.06	0.253

†検定 \*p&lt;0.05 \*\*p&lt;0.01

## V. 考 察

### 1. 1歳児クラスと2歳児クラスのスキンケア

1歳児クラスと2歳児クラスの親が行うスキンケアについて年齢間で比較した結果, 1歳児の方が高く有意差が認められたのは、『入浴時にこすらないようにしている』の1項目であった。佐々木によると, 小児の皮膚の特徴は大きく3点あるとされる。まず皮膚全体が薄く機械的刺激に弱い。次に角層の外側を被う皮脂膜がほとんど形成されておらず, 成人に比べて角層水分量が低下している。最後に皮膚の単位面積あたりの発汗量が成人の2~3倍あるという。1歳児の親が『入浴時にこすらないようにしている』のは, 佐々木のいう3つの内の1つである皮膚全体が薄く機械的刺激に弱いということを社会通念として知られている表れではないかと推察される。

有意差は認められないものの, 有意的傾向を示したものには『洗剤を少なめに使用している』と, 『ダニ対策として窓を開け換気する』が挙げられる。この2つも前者の『入浴時にこすらないようにしている』と同様に皮膚への刺激を弱めるための行動であると考えられる。

『シャンプーが残らないようにすすぐ』に表されるように, 4点中1歳児が3.90, 2歳児が3.85と高得点を示すことから, 幼児の親はスキンケアが大切であると捉えていることが推察される。

### 2. 出生順位とスキンケア

出生順位とスキンケアについて比較した結果, 『爪を短く切り掻かないようにさせている』, 『食事で汚れた都度, 口と顔を拭く』, 『汗をかくたびに着替えをしている』では, 第2子に比較し第1子の方が高いという有意な結果が認められた。

一般に, 第1子の方が育児に慣れないため育児マニュアル通りの手順を遵守したり, 育児に神経質になる傾向がある。特に『食事で汚した都度拭く』の場合, 第1子の親は子育てを初めて経験するため確実に拭かなければならないと思っていることが推察される。また, 離乳食の確立時期にあたり, 顔, 特に口周囲や手の清潔を保つため頻回に拭く機会, 回数が増えると考えられる。『汗をかくたびに着替えをしている』においても, 前述した第1子の親の特徴をより反映しているといえる。

しかし, 『入浴時にこすらないようにしている』は, 第2子以降の方が高いという結果が示された。その理由として, 幼児の親は第1子の経験から幼児の皮膚の脆弱性を理解しており, 皮膚に過度な刺激を与えないようにしていることが伺える。

以上のことから, 年齢によるスキンケアの特徴が社会通念に基づいているのに対し, 出生順位によるスキンケアの特徴は, 親の子育て経験が反映していることが明らかとなった。

## Ⅶ. 結 論

1歳児と2歳児のスキンケアと出生順位とスキンケアの二つの観点から幼児の親が行うスキンケアの現状として以下のことが指し示された。

1. 1歳児と2歳児での比較において有意に差が認められたのは『入浴時にこすらないようにしている』の1項目のみであった。

2. 出生順位によるスキンケアの比較では『爪を短く切り搔かないようにさせている』、『食事で汚れた都度、口と顔を拭く』、『汗をかくたびに着替えをしている』の3項目が第1子に高く有意な差がみられた。

本研究の結果より、幼児の親がスキンケアを継続できるよう、その幼児期の育児体験を支持し、それを発展できるように支援していく必要がある。

### 謝 辞

本研究にご協力いただいた各保育園園長・職員の皆様、お忙しい中アンケートにご記入いただいた保育園の保護者の皆様に深く感謝申し上げます。

### 利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

### 引用文献

- 1) 末廣豊, 宮地良樹. こどもの皮膚は大人の皮膚とどこが違う. In: 末廣豊, 宮地良樹. 小児の皮膚トラブル FOC. 診断と治療社; 東京: 2011. 2-11.
- 2) 山本一哉. 小児のスキンケア —— 塗り手への動機付. *Derma* 2004; 95: 52-58.
- 3) 佐々木りか子. 特集小児のスキンケア —— アトピー性皮膚炎のスキンケア. *Derma* 2004; 95: 19-23.
- 4) 佐々木りか子. 小児のスキンケア —— アトピー性皮膚炎患児のスキンケア. *小児看護* 2006; 29(10): 1327-1331.
- 5) 奈良間美穂. 子どもの成長・発達: 奈良間美穂編. 系統看護学講座小児看護学概論・小児臨床看護総論. 東京: 医学書院; 2019. pp. 49~51.
- 6) 樋口幸. 生後1か月児の皮膚状態と母親の認識との比較研究. *母性衛生* 2017; 57(4): 573-579.
- 7) 日本看護科学学会 2020 [引用 2020-03-26]. [https://www.jans.or.jp/modules/committee/index.php?content\\_id=33](https://www.jans.or.jp/modules/committee/index.php?content_id=33)
- 8) 古江増隆, 佐伯秀久, 古川福実他. 日本皮膚科学会ガイドライン日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドライン. *日小皮会誌* 2008; 118(3): 325-42.